

## 患者様へ 検査データを用いた研究のお知らせ

① 研究課題名	膝前十字靱帯の生体内動作機能評価に関する研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2013 年 1 月以降、新潟医療センターで膝前十字靱帯再建手術を受けた患者さん
③ 概要	<p>膝前十字靱帯（Anterior Cruciate Ligament 以下 ACL）は大腿骨と脛骨を繋ぐ短い線維束であり、膝関節の安定的な動作において不可欠な役割を担っています。しかしながら、ACL の損傷例は多く、これにより関節の安定性が損なわれ、膝崩れと呼ばれる現象が生じたり、膝関節内の半月板や関節軟骨の負担が増して将来的に変形性膝関節症を来す可能性があります。ACL 損傷の治療法として ACL 再建手術が行われますが、より正常に近い膝機能を再獲得するためには、ACL が実際に生体内においてどのように機能しているのかを評価し、できるだけそれに近い状態に ACL を再建することが重要です。</p>
④ 研究番号	2020-0209
⑤ 研究の目的・意義	<p>連続透視 X 線画像を用いて膝関節の運動を測定し、膝関節の回旋量および ACL 付着部間の長さ変化と膝の曲げ伸ばし運動との関係について調べることを目的とします。この研究によって、ACL 線維束が膝の曲げ伸ばしに伴いどのように機能している明らかになるとともに、ACL 再建術において適切な骨孔位置の決定に役立てることが可能です。</p>
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>測定した結果を解析するため、新潟大学へデータを提供しますが、個人が特定されないよう匿名化を行った後に行います。研究成果は国内外の学会で発表しますが、個人が特定される情報は含みません。データ提供を拒否したい場合は下記⑩に申し出て下さい。</p>
⑧ 利用または提供する情報の項目	<p>年齢、身長、体重、診断名、膝関節の運動評価データ（透視 X 線画像、下肢全長 CT スキャンデータ、膝関節 MRI スキャンデータ、大腿骨と脛骨の 3 次元形状モデル、大腿骨関節軟骨と脛骨関節軟骨の 3 次元形状モデル、大腿骨と脛骨の相対位置データ）を提供します。</p>
⑨ 利用の範囲	<p>新潟医療センター、新潟大学医学保健学科において運動解析を行います（研究責任者：新潟大学医学部保健学科 小林公一）。</p>
⑩ 試料・情報の管理について責任を有する者	<p>新潟医療センター 整形外科 渡邊 聡 新潟大学医学部 保健学科 小林公一</p>
⑪ お問い合わせ先	<p>新潟医療センター 整形外科 渡邊 聡 電話：025-232-0111</p>